## 市長あいさつ

皆さんこんにちは。北九州市長の武内和久でございます。今日は本当に多くの方にお越しいただきましてありがとうございます。

小倉北区のミライ・トーク、北九州市の未来、そして小倉北区の未来をどうやって作っていくのか、皆さんでいろんな気付きや考えを得る場として設定させていただいています。皆さんはこの会の前に色々周ってこられたかと思いますが、改めて、小倉北区の魅力を皆さんの足で目で、そして舌でもいろんな形で感じてこられたのではと思います。

この歴史のある小倉北区がこれからまたもう 1 回新しい時代に向かってどういうまちを作っていくのか、年齢や職業や考える立場を超えてみんなで意見を交わしながら考えていくミライ・トーク、そういう時間にしていきたいと思います。

陸海空の交通の要所として、江戸時代には城下町として繁栄してきた、経済、産業、商業文化などの面で北九州をまさにけん引してきたまちでございます。また、この秋からはイベントもあります。TGC もあります、平成中村座の講演も予定されています。自然もありますし、そして商業地もあります、文化もあります、歴史もあります、本当にいろんなものがたくさん詰まった北九州小倉北区、この魅力をどうやって引き出して、そして多くの人に知ってもらい、多くの人や企業が来てくれるまちとなるのか、皆さんで知恵を合わせていきましょう。

パネリストの皆さんも今日はありがとうございます。それでは楽しみながら、そしていろんな気付きを得ながら、濃密な時間にできればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## パネルディスカッション

進行（丸川）：

それでは早速、本日のパネリストの皆さんをご紹介させていただきます。

まず、岡浩平さまです。Future Studio 株式会社の代表取締役でいらっしゃり、小倉北区出身のクリエイターで、イベントの企画運営をされています。北区内で各種イベントを実施したり、プロモーション動画などを手掛けたり、また特産品の企画など幅広く活躍されております。今日はよろしくお願いします。

続きまして、井上羽菜さまです。福岡県立小倉高校 3 年生で地方創生に関心がおありだということで、今回パネリストに本人自ら立候補されたということで、とても素敵なお話を聞かせてくれるのではないかなと思っております。よろしくお願いします。

続きまして、高橋理沙さまです。ヤフー株式会社北九州センターにお勤めで、八幡西区出身・在住でいらっしゃいます。家事育児と仕事を両立しながら、社内で育児コミュニティづくりに貢献する女性管理職のロールモデルを目指していらっしゃるということです。第 14 回北九州市女性活躍・ワークライフバランス表彰を受賞されています。よろしくお願いいたします。

最後に 4 人目、田端祐さまです。株式会社タカギ 財務経理部管理課の課長でいらっしゃいまして、北九州オフィスにお勤めでいらっしゃいます。ご出身は青森県八戸市ということで 2015 年から北九州市に勤務されていて、現在、小倉北区在住とのことです。よろしくお願いいたします。

今日は高校生を含めて様々な分野の方に集まっていただきまして、ぜひ楽しみにしていきたいなと思っております。

まずは、パネルディスカッションを始める前に、小倉北区長の園区長からも一言いただきたいと思います。園区長お願いいたします。

園区長：
皆さまこんにちは。小倉北区長の園でございます。今日は本当に、このミライ・トーク in 小倉北区に大勢の皆様にお集まりいただきましてありがとうございます。
ミライ・トーク in 小倉北区の企画、パネルディスカッションの内容もそうですが、事前のイベントも、それから進行もすべて、小倉北区の若手社員が一生懸命勉強して、そして楽しみながら作り上げました。皆さんもぜひ楽しみながらこのパネルディスカッションに参加していただければと思っております。
先ほどプレゼンテーションをさせていただきましたが、小倉北区にもいろいろと課題があります。地域活動の担い手が減少してきているとか、空き家が増えているとか、そういった他の区にも共通する普遍的な課題はありますが、それは少し横に置かせていただいて、小倉北区の都心としての魅力を活かしたまちづくり、いろんな取組をやっていますよ、というところにフォーカスさせていただいて、説明をさせていただきました。
皆さんご存じの通り、小倉北区は何といっても住む、そして働く、遊ぶ、そういった都市機能が充実しています。他の区よりもかなり充実しているのではないかと思っています。住む、という視点で言うと、買い物施設、飲食施設がたくさんありますし、交通網も発達しています。非常に生活利便性が高い。それから、働く、という視点で見た時にも、先ほどのプレゼンの説明にありましたが、スタートアップ企業の活動拠点、中小、サービス業を中心とした働き場所がたくさんある。それから、遊ぶ、という視点で見ても、これはもう言い出したらキリがないのですが、芸術劇場やスタジアム、高次元の文化やスポーツが体験できる施設がありますし、シネコンや動物園もあります。またこの会場にもなっていますが、小倉城、小倉城庭園といった歴史を学びながら楽しめる施設もあります。娯楽性も非常に高いと思っています。
こういった都市機能が比較的狭いエリアに集中している。これは小倉北区の北九州市の中での特徴だと思っていますが、一方、市外県外の人から見たときにどう見えているか、魅力的に映っているのだろうか、魅力が感じられるのだろうかと、これらについては少し疑問があります。おそらく、北九州がこれから発展していくためには、市外県外から人をたくさん呼び込んでくることが必要になってくると思います。そういった時に、中心的な役割を果たすのが、やはり小倉北区ではないかと思っていますので、今日はそのためにはどういったことをやっていけばいいのか、どのようなことが必要なのか、どのようなまちづくりをしていけばいいのか、そして 10 年後、その先の 20 年、30 年後にどういった小倉北区になることを期待しているのか、こういった点を中心にぜひ建設的なご意見をいただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

進行（丸川）：
それでは、パネリストの皆さんからお話を伺っていきたいと思います。初めは 2 つお題を出したいと思いますが、一つはいまの園区長のお話も受けたところで、小倉北区の課題と強みがあるとお話がありましたが、その中でどういうことを重要だと思っていらっしゃるか、それぞれの視点でお話しいただこうかなと思います。まずは、岡さまからお願いします。

岡氏：

岡と申します。どうぞよろしくお願いいたします。パネリストに皆さんは肩書がすごいかたばかりなので、私の方からは資料を用意させてもらいましたので、こちらを見ていただきたながら聞いていただければと思います。

生まれだけは若松で、3歳から小倉に引っ越して来て、ずっと小倉に住んでおります。今まで何をやってきたかということで、北九州市で最初のコワーキングスペース秘密基地というのを、2014年1月に作りまして、これはフリーランスの方たちが集まって新しい仕事を作ったりする場所です。コワーキングの「コ」とは「コミュニケーション」とか「コラボレーション」の「コ」と一緒で、複数の人と一緒に働いて、新しい価値を見出そうというような場所です。

コワーキングスペースの中に集まったフリーランスの人たちで、私は元々建築畑ですが、料理人やデザイナーやミュージシャンなど、そういう人たちと一緒に、北九州フードフェスティバルというイベントを同じ2014年にやりまして、あさの汐風公園ですが、このように装飾をしたらなんと 35000 人もお客さんが来てくれました。本当に大変でしたが、頑張らせていただきました。肉を３ｔぐらい買って１ｔぐらい返しましたが、すごく頑張りました、というイベントです。地元の力だけで実際やってみたらできたわけですが、一つ言いたいのは、この時に“北九州は美味しい”と言い続けたということです。この頃はまだ B 級グルメのようなイベントしかなかったので、本当に美味しいものは、イベントで食べられなかったですが、このフードベーションに出ていたいたお店の方たちは、実際にお店をやっている人たちで、露店商の方たちではなく、飲食店をやっている人たちに出店していただいたという初めてイベントで、それからずっとマルシェイベントは定期的にやっていくようになりました。

ほかにも、クリエイター向けのコワーキングスペースをちゅうぎん通りでやっています。映像を配信したり、撮影したりしていますが、ここでまた一つ言いたいのですが、藍島の鰆を食べたことはありますか。とても美味しいですが、これは漁師が料理人に直接卸す魚で、市場には出ないですが、Future Studio にはこの藍島の鰆を手に入れられる料理人が実は入居しています。

ということで、今日言いたいのは、観光に伸びしろがあると考えていまして、いま、“小倉コーラ”というのを作って販売しようと思っています。夏には間に合わなさそうにないですが、いま絶賛作っているところです。瓶詰の段取りをしているところですが、小倉を題材とした商品はあまりないです。お菓子の小倉日記はありますが、実際に外から来た人がお金を払ってその場で食べるとか飲むとか、T シャツとかもまだないので、観光を中心に考えた外向けの商品を作っていくところは、まだまだ全然できていないなと思っています。ということが課題で、私は観光に伸びしろがあるのではないかと考えています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。少しだけお話を伺いたいのですが、先ほど観光は課題だけれども、伸びしろだということで、外向けの商品としてコーラを作られているということでしたが、その課題が伸びしろだということについて、もう少し教えてください。

岡氏：

私たちのような事業者は、課題だけがチャンスで、つまり課題は課題ではく、参入できるチャンスであると捉えています。例えば、高齢者問題などもあって、そこに自分が参入することは難しいと思っていますが、観光についてはもっとできることがあるのではないかと思っている、

という感じです。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。もう 1 回お話を聞くチャンスがありますので、またお話を伺いたいと思います。それでは続いて、井上さんです。課題と魅力についてお話しいただけますか。

井上氏：
　小倉高等学校 3 年の井上羽菜です。よろしくお願いします。
　小倉北区の強みの中で私が特に重要だと考えるものは、生活の利便性の高さです。区職員の方の説明にもありましたが、小倉北区は住まい、交通公共サービス、商業施設といった都市に必要な機能がコンパクトに集まっていて、暮らしやすくて働きやすいまち、ということは小倉北区が持つ最も重要な強みだと考えます。
　一方、小倉北区の課題として私が改善してほしいと考えるところは２つあります。一つ目は、歩行者の視点に立った街中の整備です。食事や買い物のために小倉北区の街中に遊びに行くことがあるのですが、無料で休憩できる場所はないかなと探すことがよくあります。また、たくさんの荷物をもって歩いていると歩道が狭いなと感じる時もあります。安全で快適に過ごせる街中の整備が必要であると考えます。2 つ目は、まちの魅力や強みをもっと活かすというところです。暮らしやすく働きやすいまち、という小倉北区の魅力、強みを区外の方に対して十分に発信しきれていないように感じます。今後人口減少と少子高齢化が進んでいくことを踏まえると、小倉北区の魅力についての“広報”を充実させて、小倉北区が持っている強みを活かした取り組みを一層推進し、小倉北区に行きたい、小倉北区で働きたい、小倉北区に住みたいと感じる人を増やす、そんな取り組みが必要であると考えます。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。いまの井上さんのお話の中で、街中で無料で休憩できる場所を探すことがある、ということでしたが、どのような感じか具体的に教えていただけますか。

井上氏：
　街中にはカフェなどはたくさんあるのですが、私たち高校生はお小遣いも限られているので、なかなか頻繁に行くことができません。高校生に限らず、高齢者の方や子供連れで買い物に来た方が歩き疲れたな、ちょっと休憩したいなと思った時に、無料で立ち寄ることができるスペースがあったほうがいいかなと考えました。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。また、お話を聞かせていただければと思います。続いて、高橋さんから、小倉北区の魅力や課題について考えているところを教えていただけますでしょうか。

高橋氏：
　ヤフー株式会社でインターネット広告の運用のサポートをしております、高橋と申します。
　私が思う小倉北区の強みは、ずばり雇用機会だと思います。私が働いているヤフーも本社は東京にありますが、2010 年に小倉の北九州市の企業誘致によって小倉北区の AIM ビルに構えて、

いま 300 人ほど働いています。北九州センターには、北九州の方だけではなく、福岡市の方や山口市の方、大分の方など、幅広く北九州センターに皆さん通っていて、とても交通の利便性と雇用機会というところが合わさった強みになるまちだと思っております。

また、小倉北区には女性の“働く”を支援する取組みがありまして、先ほど紹介のあったウーマンカフェであったりとか、私自身も 8 歳と 5 歳の子どもを育てながら働いておりまして、やはり子育ては制約の 1 つだと思います。とても素晴らしいことだと思いますが、どうしてもやりたいことの制約が出てきます。その制約があったとしても働きたいという意思があれば、その一歩を応援してくれる、小倉北区にあるウーマンカフェはすばらしい取組だと思っておりまして、そこが小倉北区の強みだと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。実際子育てをされているということで、子育ての制約があっても働きたいという女性が多くいらっしゃるのかなと思いますが、その中でこの後また出てくるかもしれないですが、具体的にどういうところが課題やハードルになっていると思われますか。

高橋氏：

女性の働きたいという一歩目については、すごく寄り添っていただいて、それは女性にとって強みとなっていると思います。ただそこから、働き続けるにあたって、幼稚園、小学校、学童など様々な取組がありますが、例えば今日、私は子どもを夫に預けて参加させていただいますが、もし夫の仕事が休みでなかったら、この場にもきっと立てなったと思います。そうなると、私がここで何かを発言するようなチャンスもなくなってしまうので、何かそういうところがもっと改善できたら、素晴らしい小倉北区になっていくのではないかなと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。今のキーワードで、「働き始める」ところから「働き続ける」ところへのサポートがもっとあったらいいというお話だったかと思います。それでは続いて、田端さんが考える、小倉北区の魅力や課題について教えていください。

田端氏：

まず簡単に自己紹介しますと、株式会社タカギという会社で、散水のノズルや浄水器を作っているメーカーでして、実はシェアナンバーワンという北九州が日本に誇っていただきたい、ニッチなところでナンバーワンを取っている会社でございます。

私が思う、強みと課題について、キーワードは、「情報発信」だと思っています。今から市長みたいなことを言いますが、私は小倉に来て 8 年、飯がうまい、安全に飲める夜のまちもある、というような大変住みやすいまちだと思っています。私も子どもが 8 歳で、8 年間北九州で子育てしているわけですが、こんなに子育てのしやすい環境があるかなと思っているわけです。

それが内外に伝わっているかという話です。こんなに住みやすいのに、人口が流出してしまう。それは良さが伝わっていないのではないか、ということを強く思います。先ほど、北九州のシンボルという話もありましたが、これからビジョン、北九州がこうありたいというのを示していただくと思いますが、それを発信するのは小倉北区である、ということが課題となってくると思います。具体的には、みんな小倉駅に行くと思います。月に 1 回は必ず行くと思います。

そういうときに、小倉駅に行けば飽きる位にそのビジョンが提示されるとか、そういう役割を担うのが小倉北区なのではないかと思っています。もちろん、小倉城もそうですし、到津の森にいってもそのビジョンが提示されているというようなところが、果たすべき課題、やらなくてはいけないという意味での課題なのではないかと思っています。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。最初の方に、小倉北区は飯がうまい、子育てがしやすい、安全である、というようなところが、すごくいいところだけれども、それが内外に伝わっていないというお話ありました。プロモーションの観点では外に向けてという話はよくありますが、内の小倉北区の人に特に伝わっていないと思うようなエピソードやストーリーはありますでしょうか。

田端氏：
　これはこちらに住む前のエピソードですが、私は競馬も好きで、開催の時にジョッキーや記者がその土地に来るわけですが、小倉の開催が楽しいと、出張で２週間、3 週間滞在するのが楽しい、魚がうまい、という記事を読んだことがありました。いざ自分が住んでみたらどこへ行ったら食べられるのかがよくわからなくて、そんなに魚を推していないという印象を受けました。それこそ色々ありすぎるので、分かりにくさがあるかなというのが一つの例としてあると思います。

進行（丸川）：
　外の人の方がむしろ良く知っているという話ですかね。すごく有名だけれど、内側の人はあまり知らなくて、あまりお勧めできていないというようなところがもしかするとあるのではないか、というご指摘だったかと思います。
　ここまでをまとめてみると、まず岡さんからは、北九州は美味しいものがたくさんあり、観光に課題はあるけれど、それが伸びしろでもあるのでもっと事業者と一緒にやってはどうかというお話。井上さんからは、歩行者視点で強みを活かしたほうがいいのではないか、無料で立ち寄れる場所があったほうがいいのではないかというお話。高橋さんからは、子育の話や働き続けるというところがキーワードだったかなと思います。最後に田端さんは、情報発信がキーワードで、外側もそうだが、内側にも情報が伝わっていなくて、魅力がたくさんあるにもかかわらず、それが伝わっていないことが課題ではないか、というご意見がありました。
　今日はビジョンの中で、今の話ではなく、10 年後、20 年後、30 年後の将来を考えていくことが目的となっていますので、小倉北区の将来像について、こういうのがいいのではないかということについて、お一人ずつお聞きしながらキャッチボールしていきたいと思っております。それでは岡さんから、岡さんが考える将来像についてお話しください。

岡氏：
　私がやっている Future Studio で、クリエイターを呼んで配信やトーク番組などをやったりしているのですが、ここにいるクリエイターの人たちは本当にすごい人達なんですが、残念なことに市外、県外の仕事が多くてそれがすごく残念だと思っています。Instagram のフォロワーも何万人も居て、海外からのフォロワー数の方が多い人も居るのですが、市内からの仕事ではなく県外や代理店を介して東京の仕事をしているのがすごく残念です。

コーラのロゴのデザインに平尾台で撮影した山椒を使っていますが、山椒はJapanese spiceなので、コーラは基本スパイスが原料なので、これを商品にしようかなと考えているんですが、クリエイターに依頼するとすごく喜んで取り組んでくれます。実は地元のクリエイターの人たちは地域に参画したいとすごく思っているのに、実はその機会があまりないと非常に感じます。

私としては、小倉を題材とした商品をもっと作っていくべきだと考えていて、先ほどの観光の話と直接つながりますが、市内の人に向けて商品を作るときに、小倉や北九州を全面に出す必要はなく、むしろ東京から持ってきたものをよさそうに見せたほうがいいと思いますが、外からアクセスする人に向けて何か届けようとするときには、やはり小倉がコンテンツとなって、それが手に取って買うことができるようにならないといけないと思います。そのような枠組み、小倉ブランドのようなものが浸透していけばいいと思いますし、アンテナショップのようなものがあって発信していければいいなと思います。そういうことをクリエイターと共にやっていくと、かっこいいものができるので、それを発信していければいいなと思っています。

まだまだハードルが高く、儲かるか儲からないか分からないからやらないという感じになるのですが、私の肌感覚として、彼らはすごく喜んでやってくれたので、地元のクリエイターのチャンスを作っていくことがすごく大事だと思います。なおかつ、若者が流出してしまうと、我々は年金をもらえなくなってしまうので、若い人に支えてもらうしかないため、若い人にとってわくわくするまちになっていないとだめだと思っています。高齢化していくのは仕方ないことで、段差がなく手すりが増えていくまちは確かにやさしいまちでいいのですが、もう少し若者がわくわくできるようなものを、私たち現役世代がもっと作っていかないといけないなと感じています。

進行（丸川）：

ありがとうございます。市内にもクリエイターはたくさんいるものの、外の仕事が多く、でも実はそういう人たちも地域に関わりたいと思っているけれど、その機会が少ない、というところで、クリエイターにチャンスをということや若い人がわくわくすることが大事であるという話がありました。若い人がわくわくするというところで、小倉コーラの話はありましたが、もっとこんなことをしたらいいのではないか、ビジョンの話なので、夢の話で結構ですので、やりたいなと思われていることはありますか。

岡氏：

デザイン費用はなかなか北九州は出にくいと思っていまして、例えばWordで資料を作るのと、デザインされたチラシを作るのとでは工程が全く違って、デザイナーは見やすさを考えているのですごくいい資料になるのですが、実際には印刷費用しかでなかったりして、なかなかデザイナーが関わるチャンスがないと感じています。かっこいいものでなければ、みなさんは魅力を感じないのではないでしょうか。例えば、ここにも江戸時代に作ったかっこいいコンテンツがあるじゃないですか。こういう魅力的なものがないと、人が離れていく理由になると思います。

進行（丸川）：

デザインの話で、前の方に若い方が座っていらっしゃるんですけれども、首を縦に振って共感してくださっていました。アウトプットは最後はみえるけれども、見えづらい部分、そこにか

かる工程はすごく手間がかかっていて、市も含めてみんなで一緒に若い人にチャンスを与える機会が作れるといいのではないか、そういう小倉北区になってほしいというお話でしょうか。

岡氏：
　はいそうです。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。それでは続いて、井上さんの考える将来像について教えてください。

井上氏：
　私が考える小倉北区の将来像は、「安心して生活できて、面白さ溢れるわくわくするようなコンパクトシティ」です。
　具体的に 2 つ提案します。一つ目は、「安全で快適な都市空間の形成」です。小倉の街中については、おでかけ中や、学校、仕事帰りの人々がほっと一息つけるようなフリーの休憩場所がエリアごとに整備されて、さらに歩道の拡幅や段差の解消が行われて、誰もが気持ちよく移動できるようなそんな空間になったらいいなと思います。また、小倉駅北口側については、海に面しているという利点を活かして、ウォーターフロントの商業施設などが整備され、コンベンションセンターやミクニワールドスタジアムでのイベント帰りの人たちが、食事やアミューズメントなど楽しめるようなエリアになればいいなと思います。
　二つ目は、「にぎわい溢れるまちづくり」です。安心して生活ができる、という小倉北区の強みを活かして、新規企業の誘致や区内への移住を促進して、まちの活性化につなげていくことが大切であると考えます。また、昔からある、夏祭りなどのイベントについては、より多くの住民の方に参加してもらえるような工夫を行いながら継続しつつ、コンベンションセンターなどを活用した新たなイベントも実施していくことが必要だと思います。その際に、区外からも多くの人が来訪してくれるようなイベントを企画していくことが理想的です。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。キーワードがたくさん出ましたが、安心とかコンパクトとか、わくわくについては先ほど岡さんからもありました。その中で、区外からも多くの人が来訪してもらえるようなイベントを企画する、とありましたが、区内の人が小倉北区のイベントに参加するのは近いし、お金もかからないということもありますが、区外の人に来てもらうにはどうすればいいでしょうか。

井上氏：
　面白いイベントを企画する、といってもそれぞれ世代や個人によって面白いと感じる内容は異なります。例えば、私たち若者のような世代であったら、コンサートや音楽や食べ物とかのフェス、中高年の世代であれば講演会など新たな学びを得られる場所であったり、ご高齢の方に関しては、人との交流を楽しみにされている方も多いのではないかと思います。このように、どのようなイベントにニーズがあるのかを踏まえた上でイベントを企画していくことによって、より多くの人に楽しんでもらえるし、小倉北区に来てもらえると思います。

また、多くの人に小倉北区の良さを知ってもらうためには、広範囲への情報発信と手軽な情報取得を可能とする仕組みが整っている必要があります。すでにあらゆる SNS で小倉北区、北九州市の情報が発信されていますが、その取り組み自体を知っている人が少ないように感じます。なので、一つのイベントのウェブサイトであっても、小倉北区の、北九州市のホームページの URL が貼ってあったり、公式 LINE の紹介があったりというのがあれば、より多くの人に情報が届くのではないかと思います。また、行政主催のイベントに限らず、地域で行われるイベント情報などが一覧の形で手軽に見ることができるサイトなどがあれば、すごく便利だなと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。一回目にお伺いした課題で、区外発信が課題だと上げていただいて、その中で、区外の人にイベントに来てもらわなくてはいけない、でもその内容は世代ごとで異なるということ。また SNS の発信も現状あるけれど、知らない人も多いというところで、そこに合わせた情報発信に小倉北区は力を入れていくべきだということ。そういうことに取り組んだ結果、安心してわくわくするコンパクトシティが実現するのではないか、というお考えだったかなと思います。高校 3 年生ということですが、皆さんご自身の高校 3 年生の時にどんなことを考えていたのかということを考えてみていただけると、特に大人の方はいいかなと思います。

それでは、高橋さんから小倉北区の将来像についてお聞かせください。

高橋氏：

私は、「働き続ける」ということに将来像として期待しているところがあります。子育てをしながら働き続けるのは思ったより大変です。病気や出張など子育てを理由に仕事を制限するところがどうしてもあると思います。子どもと一緒に居たいということであれば全く問題はないのですが、自分はもっと仕事がしたいのに子どもを預けるところがないから仕事ができないという状態は、是非とも無くしていきたいと思いますし、小倉北区にもそういう点になにかしらのチャンスがあるのではないかと思います。

そのようなときに、同じようなママたちがどのように子育てと仕事の両立をしているかというと、自分の親、おばあちゃんやおじいちゃんに預けて仕事をしているというケースが非常に多いです。このことについて考えたのですが、自分の娘が今小学 2 年生ですが、後 20 年後にもし自分の子どもが子どもを産んで私がおばあちゃんになった時に、自分も同じことができるだろうかと。おそらく私は 20 年後もまだまだバリバリ働いていると思いますので、娘や息子の子どもを預かれないと思います。そうなった時に、自分の娘は何かが制約あって仕事ができないのかというと、それは非常に残念だと思うので、何かしらそこで期待できることがあるのではないかと思っております。

進行（丸川）：

ありがとうございます。一回目の課題で、働き続けるに課題があるということで、将来像として、働き続けられる小倉北区であってほしい、ということでした。面白いのが、20 年、30 年後も高橋さんはバリバリ働き続けていて、今は自分の父親母親に預けているけれども、そもそも働き方が変わっているはずだから、20 年、30 年後はそうではない仕組みを作っていかなくては、

子ども世代も高橋さん自身も働き続けられない、というご提言だったかなと思います。
　ちなみに、これは妄想の話となりますが、20 年、30 年後に高橋さんはどんな仕事をされていると考えますか。

高橋氏：
　私は今、インターネット広告の運用サポートをしているのですが、広告を通じて、皆さんの選択や思考を広げていきたいと思っています。皆さんが何かしら行動をする時に、何かしらの選択をしようとしているんです。その選択の可能性や幅を広げていく何かに関わって、20 年後もバリバリ働いていると思います。

進行（丸川）：
　力強いですね。広報戦略をぜひ相談したい気持ちになってきました。そうやってライフステージが変わる中で、今は女性に着目していただきましたが、例えば介護があるとか障害があるとか、いろいろなハードルがあってもそれを理由にせずに「働き続ける」ということ。市長も「稼ぐまち」とおっしゃっていますが、稼ぐというのはお金を稼ぐという話よりも、自分がやりたいことを自己実現していくという要素もあって、そのステージを作ることがすごく大事なのかなと、お話を伺っていて感じました。
　続いて、田端さんから小倉北区の将来像についてお聞かせください。

田端氏：
　私はあえて、抽象的なことを言います。区もしくは市が描くなりたい姿を区民または関連する人たちが理解して、賛同する方々が流入する、そんな状態を理想だと思います。つまり、どんな組織でも、会社が一番わかりやすいですが、会社や部活などに目標がなかったり、どこを目指すかが一致していない、そういう組織はうまくいかないですし、面白くもありません。当社は 1000 人ぐらいいますが、1000 人が皆、10 年後はここを目指すというのを本当にわかっていたら、すごい力が生まれます。それと同じで、少なくとも私は今、北九州がどこを目指しているのかを知りません。それをいまから作って発表しようとしてくれているんですが、それを北九州市民が全員しっている、もちろん賛同してくれる方が多いのは一番いいのですが、そこは合わない方も居ると思うので、まずは知っているというところを理想の姿としたいなと思います。中身についてはすでにたくさんの方がいろいろな意見を言っていると思うので、私は何でもいいと思っていて、いい意見がたくさん詰まっているはずなので、みんなで共通認識をもって進んでいこう、という姿を理想とさせていただきたいと思います。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。ビジョンをいま作っていて、今日も皆さんに集まっていただいてご意見を出していただいておりますが、目指すべきビジョンの発信を北区が担うべきだと課題でおっしゃっていて、将来像では、なりたい姿が多くの人に理解されている状態に小倉北区がなったらいいんじゃないかというお話でした。この目指すべき姿がどちらを向くかということよりも、目指すべき姿を知っている人がたくさん居て、外からも賛同する人が集まってくる、ということを小倉北区として担っていくべきではないかと、聞いていてなるほどなど思いました。

具体的にどこを目指すかはなんでもいいというお話でしたが、パネリストの方からたくさんご意見をいただいていて、それかを目指せばいいとういことかもしれないですが、田端さんが実は思われている、区の姿として何かアイディアがありましたら教えてください。

田端氏：
実は女性二人の意見とかぶっていまして、井上さんが言ってくれた、休憩できるまちというところで、うちは浄水器のメーカーなので、行政の水道局と組んで、浄水器をたくさんの場所に設置して、水が飲めるまち、というのは意外とないのではないかと思っていて、明日からでも事業のアイディアとしていいのではないかと思いました。また、高橋さんと私は全く同じで、私は8歳と3歳の子育てをしていて、青森出身で近くに親が居ない中で子育てをしております。なので痒い所に手が届くというか、7時まで働いても市がフォローしてくれるようなサービスが、すでにあるのかもしれませんが有料でもいいのであるといいのではないかと思います。親が働きやすい、親が子育てしやすいまち、というのは本音では思っています。

進行（丸川）：
ありがとうございます。ちょうど井上さんがと高橋さんがおっしゃっていただいたことと、田端さんが思っていることが重なっているという話で、タカギさんの水回りの話もある中で、民間企業で手を挙げてくれるところが、将来の話かもしれないですが、井上さんの描く夢をもしかしたら叶えてくれるかもしれない。そうなった時に、人が集まる場所で、給水スペースがあって、無料で立ち寄れる歩行者視点の場所があるとしたら、井上さんはどんなことがしたいですか。

井上氏：
部活帰りなどに、みんなでそこに集まりたいです。そこへ行けば、水もあるので、近くに買い物できる場所があれば、買ってきて、椅子と机を使ってここで食べながら、みんなでおしゃべりしたいです。

進行（丸川）：
皆とお喋りするというのはとても重要だなと思っています。SNS で知るというのもあると思いますが、そういった何気ないお喋りの中で、今度こういうイベントあるから行かないかと誘われて知ることもあるでしょうし、無料の給水所のような場所で、なるべくいろんな人との接点やコミュニケーションが生まれるのも素敵ですね。
また子育てのところで、かゆいところに手が届くという話がありましたが、高橋さんが子育てにおいてかゆいと思われるところはどういうところがありますか。

高橋氏：
例えば、気軽に子どもを預けられる場所があればすごくいいと思います。小倉北区は、コワーキングスペースなど仕事をしやすくする場所はありますが、そこにセットで子どもを短時間でもいいので預けられる場所があればいいのではないかと思います。例えば北九州市に出張に来て、コワーキングスペースを使うとなった時に、子どもを絶対に置いていかなければいけないのでしょうか。子どもを連れてくる出張も、今後恐らく10年、20年後にはあると思っていまし

て、その時にコワーキングスペースの横に託児所があって、子どもを少し預けることができれば、子どもとの関わりも続けられますし、自分も仕事ができるというところで、そのような機会があれば素晴らしいなと思います。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。私も最近 3 月に子供が生まれまして、大阪に住んでいますので、いま子どもは大阪に居るのですが、北九州の仕事をする時に、子どもを連れてくる出張ができたらすごいうれしいと思いますし、そんなまちがあれば住んでみたいなと思いましたので、とても共感しました。
　ここまでの議論をお聞きになって、どの話題についてでも結構ですが、岡さんが何か感じられることはありますでしょうか。

岡氏：
　先ほどの高橋さんのお話しについては、恐らく子連れでコワーキングスペースを利用するのは何の問題もありませんので、連れてきていただければと思います。すでにそこは整っているかもしれないなと思いました。私も、すでに子どもが大きくなったのですが、私は自営業で家で仕事ができるためあまり感じたことはないのですが、会社員の方はそういうことで困っているんだなというのを改めて感じました。

進行（丸川）：
　ありがとうございました。見えている人には見えているけれど、困っている人にはその情報がなく、つながりもなくて、やっていいのか分からない、というところに対して、もしかすると小倉北区が中心となって、北九州全体もそうですが、情報発信をしていくのが大事なのではないか、というところに落ち着きそうな気がしてきました。
　パネリストの方々の多様なご意見が出てきましたが、実は前の左右にピンク色のハート型のメモがたくさん貼られていまして、これは区内の小学生と中学生が書いてくれたものでして、小倉北区のこういうところが好きだ、とかこんなまちになってほしい、ということをテーマに書いてくれたものをまとめたものになっています。またお帰りの際にご覧いただければと思いますが、具体的にどんなことが書かれているかというと、例えば、「小倉城が好き」、「図書館が好き」、「勝山公園が自慢」といった、施設が魅力的だという意見がありました。ここから先がポイントなのですが、「小倉北区のみんなが好き。困ったり泣いている人が居たら、大丈夫と声をかける優しい人が居るから」、「一人一人が優しさや思いやりに溢れるまちになってほしい」、また先ほど公園が自慢という声がありましたが、「勝山公園でごみ拾いボランティアをするひとたちがいい」というような声がありました。何が自慢ですかといったときに、小倉城や勝山公園という声がある一方で、小中学生であっても、小倉北区のソフトの部分、小倉北区に住んでいる人に魅力を感じていて、このような優しい人、困っている人が居たら助けてくれるという面に気付いていらっしゃる、というところを見ていて思いました。園区長はこのメモの内容についてどう思われますか。

園区長：
　私もハート型に貼られた皆さんの想いのこもったメッセージを読ませていただきましたが、

小学生、中学生にしても、小倉北区を本当に愛しているんだなと、気持ちが伝わってくるメッセージをたくさんいただいたと思っています。やはり、小学生、中学生は非常に純粋なので、心で思ったことを書いてくれていて。だからと言って大人がそういう気持ちを持っていないということを言っているわけではないのですが、本当に見ていて感動するような内容でした。この小学生、中学生に、これからも小倉に住み続けたい、働き続けたい、そう思われるような小倉北区にぜひしていきたいなと心より感じます。

## 質疑

進行（丸川）：

ありがとうございます。またお帰りの際にじっくり見ていただければと思います。子どもらしいゲームセンターが欲しいという意見もありましたし、そういったのも含めてほほえましく見ていただければと思います。

ここまで、パネリストの方に色々とご意見を伺ってきまして、このようにまとまっていますが、皆さんからも先ほど城内ツアーの後に、試食などしていただいた後に、メモを書いていただきました。そこでここからは、会場の皆さんからいただいた、小倉北区の将来像について、いくつかピックアップさせていただき、マイクをお回ししますので、こうなったらいいなというところをお聞きしていきたいと思います。メモには、ニックネームと年代を書いていただいてますので、お聞きしていきたいなと思います。

まずは、10 代の M さんです。「暮らしやすいまちにするために、若者しか気づけないまちの問題点を見付けて、大人に伝えたい」ということなんですが、若者にしか気づけない問題点について具体的にどんなものか気になったんですが、これを書いてくださった 10 代のMさんはいらっしゃいますか。具体的に教えていただけますか。

Mさん（10 代）：

私は最近塾に通っていて帰りが 10 時半過ぎぐらいになるのですが、その時間には高齢の方は寝ていたり、外にはもう出ないと思うのですが、私はその時、街灯が少ない所があるなと感じていて、それは私にしか気づけないことだと思っています。だから若者にしか気づけないことをもっと伝えたいなと思います。

進行（丸川）：

なるほど、ありがとうございます。すてきなご意見だと思います。10 時半まで勉強していることに驚きと大変だなという気持ちがありますが、確かに若者にしか気づけないことがありますね。それでは、別の方にお聞きしてみたいと思います。「ごみが落ちていない綺麗なまちを作りたい」と書いてくださった 10 代の H さんはいらっしゃいますか。このごみが落ちていない綺麗なまちを作りたいというのは、どういう思いからでしょうか。

Hさん（10 代）：

小倉のまちは飲み屋が多いと思うのですが、信号のボタンのところにビールの缶を捨てている人を見て、そういうのが減ってほしいなと思いました。

進行（丸川）：
　なるほど、ここに集まっている方の中にはおそらくそういうことをなさる人は居ないと思いますが、もしかすると、みんなで拾うということで解決できるかもしれませんね。見て見ぬふりをしない、先ほど小学生からのコメントに、困っている人が居たら声をかけるような小倉北区がいいという話や、勝山公園のごみ拾いをボランティアでしているのがいいといった話があったように、ひとりひとりの心がけでも解決できるところもあるのではないかなと思いました。
　続けて、50 代の方からのコメントで、「自慢できるまちになってほしいです」と書いてくださっていますが、これを書いてくださったかはいらっしゃいますでしょうか。いらっしゃらないようなので、次へ行きます。「若い世代がいきいきと働ける企業誘致をしてほしい」というコメントを書いてくださった、30 代の RF さんいらっしゃいますか。お願いします。

RF さん（30 代）：
　私も市外から来ていて、北九州で働いているのですが、自分が就職活動をする時もやはり基本は博多の方で、大きな説明会も向こうが多かったのですが、私もこちらで就職して学生さんたちに案内をする時にどうしても先に目が大きな博多や別の都市に行ってしまうので、新しい商業ビルができていると思うんですが、色々な企業を誘致していただいて、若い方の目がまず北九州にも向いてくれるようにしてくれたらうれしいなと思いました。

進行（丸川）：
　企業誘致の話なので、高橋さんにお聞きしたいと思いますが、誘致されて地元に働けることになった側だと思いますが、お聞きになって何かお感じになられたことはありますか。

高橋氏：
　まさに、北九州センターというところができていなければ、私はいまの会社で働いていないので、企業誘致をして、そこで働けているというのは、子育ての制約ではなく、住んでいるところに縛られない働き方ができるというのは素晴らしいなと思います。

進行（丸川）：
　高校生の井上さんにもお聞きしてみようと思いますが、企業誘致を進めてはどうかという話で、地元で働けると聞いてどうでしょうか。

井上氏：
　私はもともと、自分の地元に貢献できるような人に成長したいという思いがあったので、地元で働けるというのはすごくありがたいし、楽しみなことになりそうです。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。地方創生に興味があるとのことでしたが、地域を良くするという活動に大変興味があって、地元で働けたらいいというお話だったかと思います。ご発表いただいた方もありがとうございます。

田端氏：
　少しだけ話に乗っかってもよろしいでしょうか。

進行（丸川）：
　どうぞぜひ。

田端氏：
　地元の会社の物を買おう、と簡単に言いますが、今の話を聞いていると、例えばうちの会社でいえば全国に向けて販売しているわけですが、売り上げが 2 倍になれば 800 人雇用が生まれるわけです。つまり皆さんがまず、地元の会社のものを買っていただくと、雇用が増えて地元はみんな嬉しい。このサイクルを分かっている人は分かっているけれど、私も今初めて分かったので、この当たり前のサイクルをぜひ、今日この場に居る皆さんは率先して地元の会社を調べて、地元の会社のものを買っていただいて、タカギのものも買ってください、と思いつきました。

進行（丸川）：
　最後に少し宣伝が入りましたが、大事なことだと思います。地域で生まれたものを地域で使っていくということで、知るということもそうです。タカギさんの商品は一般消費者にも買いやすい所にありますので、ぜひ手に取ってみてください。
　あと少し、高齢者の方にも聞いてみたいと思います。「高齢者が元気なまちがいい。高齢化社会が問題となっているので、もっと高齢者が働けるような場所をアピールしてほしい」と書いてくださった 60 代のヤンさんはいらっしゃいますでしょうか。いらっしゃらないようなので、また高橋さんにお聞きしたいと思いますが、高齢者が働けるような場所ということで、高橋さんが目指す 20 年、30 年後もバリバリ働くという考え方とつながっていると思うのですが、高齢者が元気なまちがいいというご意見について如何でしょうか。

高橋氏：
　高齢者というと、勝手にこういうことしかできないだろうとこちらが制限をかけて、フィルターをかけているような気がしています。本当はそうではなくて、高齢者の方もやりたいことがあって、この目的のためにこれを成し遂げたいといようなところもあると思います。なので、企業や区が高齢者だからこういう仕事しかできないだろうと制限を決めずに、年齢などに縛られずにやりたいことを生き生きとできるというのが、高齢者が働くという点で、素晴らしい事ではないかなと思います。

進行（丸川）：
　後ろからも拍手が出ております。ありがとうございます。続けて、50 代の方から「まちのカラーがしっかりしてブレないそんなタフなまちを目指したらいいんじゃないか」ということでいただきました。こちらはどんな思いを込めていただいたのか教えていただけますでしょうか。

参加者（50 代）：
　北九州市を考えて書いてしまったんですが、私は北九州が出たことがなく、比較対象がないのですが、色々と話を聞くにつけとても住みやすいということと、でもイメージが悪いという

ことを北九州フィルムコミッションの方のお話で聞きました。でもとても尽力されていることがわかりまして、その一方の話だけかもしれませんが、今日のこのイベントにしても、これだけ良いことを数えられる市民をもっているということは、聞く耳もたくさん持っていると思います。いろいろなものと比べるよりも、ある程度確立していくことで、厳しい意見も受け止めて立ち向かっていければ私は盤石ではないかと思っております。

進行（丸川）：
　素敵なご意見をありがとうございます。カラーがぶれないという話は、先ほど田端さんからあった、目指すべきビジョンを小倉北区中心に発信していくべきだという話と似ている気がしますが。

田端氏：
　全く一緒だと思います。北九州市は 100 万弱の人口ですが、100 万人に対してすべての人が満足する政策とか施策なんてできるわけがなくて、こっちの人が満足したらこっちは満足じゃないというのは絶対にあり得ます。ですから、そこは市長が皆さんの意見をまとめて、これだというのを打ち出していただいて、反対意見は飲み込む覚悟でそこを示していただきたいなと思っています。よろしくお願いします。

進行（丸川）：
　市長に対するメッセージとなりました。ありがとうございます。続けて、これは岡さんにも少しお聞きしたいと思いますが、「県外のみならず世界の人が訪れたくなるような観光地にしたい」とお書きいただきました、10 代のＳさん、いらっしゃいますでしょうか。観光地にしたいということで、世界の人が訪れたくなる観光地になると良いなということで、お聞かせください。

Ｓさん（10 代）：
　これはさきほど気付いたことなのですが、小倉城に行くまでの道のりで魚町商店街を通った時に、色々とたくさん家族連れの人たちが居て、何を話しているのか耳を傾けると、言葉が全然わかりませんでした。それでその人たちが外国人だと気づきました。また小倉城に入ってからも、何を話しているのか言葉が分からない人がたくさんいて、今までは海外の人たちが訪れるのは博多やメジャーな場所のイメージがあったのですが、小倉北区にもこんなにたくさん海外の人が訪れるんだとさきほど気づきました。
　極端な話ですが、ここから北海道に行くよりも韓国の方が距離が近いですし、九州の中で一番、福岡がユーラシア大陸に近いので、海外の人が一番訪れやすいと思っています。だからと言って、何でもかんでも来てもいいのかというとそうではなくて、近隣住民の方たちの騒音問題やマナーの問題も色々とあるので、いきなり進めるというわけではなく、視野の中の 1 つに入れておけばいいのではないかと思いました。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。ただ呼べばいいという話ではなく、多角的に様々なリスクなども考慮いただいた総合的なご意見だったかなと思います。シンプルに魅力ある観光地にできたらいいなという話があった時に、先ほど岡さんからお話のあった、観光の伸びしろがあるというと

部分とつながるかなと思います。博多よりメジャーではないけれど、それが伸びしろで、色々と関わりしろがあるのではないか、そんなご意見だったと思います。今のお話を聞いて、岡さんはどう思われますか。

岡氏：
　まだまだお金を落とす場所がないなと正直思っています。小倉に来れば、恐らく小倉城に来ると思いますが、小倉城に来たら、しろテラスでなにかちょっとお土産を買って、リバーウォークへ行く、という感じではないかと思います。おそらくそれぐらいしかなくて、直結していないなとすごく思います。移動した先に、商品があって、ここで買い物すれば大体済むといった場所がまとまっていないなと感じていて、まだまだ転々としているのではないかと思います。
　アクションとしては、福岡にはたくさん人が来ていて、小倉はまだ来ていないかもしれないですが、宇宙人ぐらいから見れば福岡も小倉もそれほど変わらない距離で一緒だと思うので、福岡に小倉や北九州のコンテンツをもっと置いて、ほぼ 16 分、17 分ぐらいで来られる距離なので、そういうことはやっていくべきだと思っています。もっと、北九州にも色々とある、ということを県外や人が集まる所へ出していって、いまおっしゃったように、県外や国外からも人が集まってくるようなところになっていったらいいなと思います。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。井上さんにもお聞きしてみようかと思います。観光の話が出ましたが、高校生なのでまだそんなに遠くへは行っていないかもしれないのですが、今好きに、お金は気にしなくていいから好きなところへ観光に行っていいよ、と言われたらどこへ行きたいですか。

井上氏：
　そうですね。結構いろんな所へ行ったことがあるのですが、福岡市に魅力を感じる事が多いです。

進行（丸川）：
　それはなぜでしょうか。

井上氏：
　比べることにはなってしまいますが、福岡市、例えば博多や天神には常に新しいことがある印象があって、例えばビルの建物の真ん中に大きな庭みたいな公園があったり、常に新しいものがあって次はこれができたからもう一回ここ行こうよとか、何月にこれができるらしいからもう一回ここ行こうとか、そういう新しさが常にある場所に人は、若い人は特に行きたがると思いうので、そういう新しさが北九州や小倉北区にも少しあればいいなと思います。

進行（丸川）：
　まさに先ほどあった伸びしろの話ですね。福岡には新しい施設があるから行きたい、北九州にはないということで、若者がわくわくするものがあればまだ伸びるんだという話で、そこが今までの話とつながってくるかと思います。

思ったよりも時間があるのと、他の区とは違う感じで、さらに若い方にもお話を聞いてみようかなと思います。もしかすると大人の方のサポートが必要かもしれないですが、８歳のＡさんから「入った時からホラーが出るのがいい」と書いていただきました。Ａさんいらっしゃいますでしょうか。ぜひ、どんなものか教えてください。

Ａさん（代理で母が回答）：
ホラーは好きらしいのですが、どういうところが好きなのかは分からないらしく、自分たちが子どもなりに楽しめる場所が、いま外に出るとないので、そこら辺の楽しみが欲しいのではないかと感じました。

進行（丸川）：
ありがとうございます。おそらく最年少の意見ではないかと思います。ホラーというとあれですが、わくわくの話につながるのかなと思います。子どもや若者がわくわくする要素が小倉北区に生まれるといいのではないか、というお話だったかと思います。ありがとうございます。
続いて、20 代の YM さんからいただいています。「行政と市民が ICT を活用し双方向にコミュニケーションが取れるまちにしたい」と書いていただきました。20 代 YM さんいかがでしょうか。

YM さん（20 代）：
小倉北区でというより北九州市として、行政と市民が双方向でコミュニケーションが取れるようなまちづくりができればいいなと思っています。まず市民から行政にという点では、今回の場もそうなんですが、北九州市にはこのまちのために、と思っている方が多いと思いますので、そういった情報を気軽の投稿できるような仕組みがあればいいのかなと思います。このような場で対面で伝えることもとても大切だと思いますが、デジタルな部分を使うことでより気軽に提供できるかなと思います。逆に、行政から市民にという点では、先ほどパネリストの方からもありましたが、区内外含めた情報発信というところで、情報を得ようとしている人むけにはもちろんですが、情報を得ようとしていない人に向けても行政からのプッシュ型で情報発信していくことが大事なのではと考えています。双方向のコミュニケーションを取ることで北九州がより良いまちになっていくのかなと考えます。

進行（丸川）：
ありがとうございます。とても素敵な視点ですよね。今日前半で井上さんから、発信していく、SNS を通じて市が伝えたいことを外に発信していく、ということが大事だという話があったんですが、今のご意見は、市民から市へ伝えるというコミュニケーションも必要で、今日の会はまさにそういう会なんですが、それによってお互いの理解が進んだり、何が課題かがわかったりする。毎日やるのは大変ですが、IT をうまく使うことで、もっと気軽に、コストが低くお互いでやり取りができるのではないか、というようなご意見だったと思います。井上さんはこのご意見について何か感じられたことはありますか。

井上氏：
いろいろな人の意見を聞いていて、確かに、行政から市民への情報発信はされているけれど、

なかなか自分たちが思うことを表現する場所がない、特に若者については自分が思ったことを気軽に言えるような場所がないので、そういう仕組み作りがやはり大事だし、そのような若者の意見も取り入れてもらえることで、これから自分たちが住んでいく、働いていく場所をより良くするための第一歩にもつながるのではないかと思いました。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。全部ご紹介したかったのですが次を最後にしようかと思いますので、パネリストの皆さんは次の発表のご準備をお願いします。SNS つながりで、10 代の HK さんから「若い人がたくさんいるところになってほしい。いろんなところで小倉の良さを教えたり SNS を用いたりしたらいいのではないか」といただきました。HN さんからどうでしょうか。

HN さん（10 代）：
　私は、若い人がたくさんいる小倉北区、北九州市になってほしいと思っています。自分たちが遊ぶ場所、集まる場所は若い人達がたくさんいるところで、それは小倉駅やリバーウォークなど、若い人が多いとこばかりに行ってしまいます。たまに違うところ、ちょっと自然がある所へ行くと、若い人は全然いなくて、自分達とは年の離れた方と話す機会などもあるのですが、自分がボランティアなどの機会があるときにも、若い人が来てほしいと聞くので、若い人が行けばそこも活性化しますし、自分たちも色々な場所に行きやすくなるのではないかと思いました。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。岡さんにお聞きしたいと思いますが、若い人が集まるところ、という視点でしたが、先ほどもそのための情報発信が必要で、そこにはデザインの話もあったかと思いますが、結局は、硬いものだと見てもらえなくて、若いクリエイターを使ってデザインを取り入れて、というお話だったかと思うんですが。

岡氏：
　その通りだと思います。市政だよりなども、かなり色々と情報が書かれていて、毎月、毎月やってきて、全部見るのは不可能なぐらい、ウェブサイトも含めて情報量があるんですが、ただやっぱり見ないという現状がある。行政がすごく情報発信していますが、アクセスするのが難しい、モチベーションがないのだと思います。それは、デザインの問題なのかなと思っていて、自分の知りたい情報がちゃんと得やすいというのは、クリエイティブの問題だったりするのではないかと思います。

進行（丸川）：
　ありがとうございます。時間の都合で全部をご紹介できなかったのですが、似たようなご意見は集約してお伺いさせていただきました。必ず目は通してビジョンにも入れていきたいと思っております。

## パネリストによる「〇〇なまち」発表・まとめ

進行（丸川）：

それでは最後に振り返りをさせていただきます。パネリストの皆様に本日お話しいただいたことのまとめとして、目指す将来像を「〇〇なまち」という形でお答えいただきたいと思っております。では、岡さんからお願いできますでしょうか。

岡氏：

「ツクレルシティ」というのを考えてみました。消費するのではなく、生産するマインドにしていかなくてはいけないなとすごく思っていて、足りないと思う人たちが、気づくことができるので、そういう人たちが行動に移していければいいのではないかと思います。どうしても、何もせずに享受するだけでは難しい、万遍ないサービスは難しいのではないかと思うので、行動する人たちによって作られるまち、というのが一つあってもいいのではないかと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。「ツクレルシティ」ですね。では、井上さんお願いします。

井上氏：

私は先ほども言ったように、「安心して生活ができて、面白さ、わくわくの溢れるコンパクトなまち」です。今の安心して暮らせるまちをもっと活かして、それに加えて新しさとか、わくわくだとか、あとは若者や色んな人が新たな楽しみをもって生活できるような、前向きな明るいまちになったらいいなと思います。

進行（丸川）：

ありがとうございます。それでは、高橋さんお願いします。

高橋氏：

私は「制約があってもやりたいことが全力でやれるまち」です。子育てや介護、年齢や住む場所などいろいろと制約はあるかと思いますが、その制約があったとしても、自分のやりたいこと、将来に成し遂げたいことを全力でやることができるまちが、素晴らしいなと思いました。

進行（丸川）：

ありがとうございます。それでは最後に、田端さんお願いします。

田端氏：

私からは何度もいっていますが、「めざす将来像を、強烈に尖って、発信し続けるまち」です。これから出てくるビジョンをただ発表しました、掲示しています、で終わらせるのではなく、全市民の頭に叩き込むぐらいに、強烈に尖ったものをやり続けていただきたいと思います。イメージは、「うどん県、香川」のような、みんなが知っているような強烈なインパクトのあるものを発信し続けて、そしてみんなでそれを目指していきましょうという映像を期待しております。

進行（丸川）：
　ありがとうございました。それではここまでのお話を踏まえて、区長よりコメントをお願いします。

園区長：
　本当に皆さんいろいろな形で小倉北区に関わられていると思いますが、小倉北区の将来を考えた意見をいただきまして、ありがたいと思っております。本当に行政の資産となる意見が多かったと思います。お話を聞いていると 4 人が連携して何か事業をやったらうまく行くんじゃないかと思うくらい、一生懸命いろいろなことを考えられているなと思いました。それと、8 歳の女の子からいただいたコメントですが、私も実は 8 歳の女の子と考えが重なる所がありまして、これは小倉北区の職員に時々言っているんですが、ぜひゾンビハロウィンをやりましょうと。どれだけ真剣に考えてくれているかわかりませんが、そういう話もしたりしていました。
　今日は、全体的にやはりまだまだ情報発信したほうがいいのではないかということ、それからもっと若者の意見を吸い上げて若者の力を借りてまちづくりを考えたほうがいいのではないか、そういった意見が多かったように思います。もっと快適なまちにして、休憩所を多くして、暮らしやすくして欲しいということや、ずっと働き続けるまちにしてほしいという貴重なご意見もいただきました。
　これから、今日いただいたご意見も参考にしながら小倉北区、北九州市の行政が作っていかなくてはいけないと思っています。小倉北区としては、今あるものをよりグレードアップしていくことが必要になるかと思いますし、最後に田畑さんが言いましたように、小倉北区としての尖がりをしっかり作っていって、北九州市としての尖がりも作っていかなくてはいけないんだと思います。そのうえで、明確な意思表示をして、しっかりと PR していくことも取り組んでまいりたいと思いました。今後、我々の取組の参考になるご意見をたくさんいただけました。ありがとうございました。

進行（丸川）：
　それでは最後に、市長から本日を振り返ってコメントをいただきます。

武内市長：
　今日は、本当に面白かったですね。パネリストの皆さんも色々なご意見をいただきまして、来場者の方にもお話をいただいきました。今日は 18 歳の意見にも私はびっくりしましたが、8 歳の意見まで聞けるとは思わなかったので、本当にいろんな世代の方が、小倉北区、そして北九州を考えてくださった貴重な時間だったと思います。どなたかもおっしゃいましたが、若い方も思いっきり言いたいことが言えるまちに、ということで、こういう場でどんどんみんなが考えていることを言い合う、そういう北九州市でありたいなと思いました。
　この小倉北区の話をしていると、やはり全部入りの、すべてが一通り揃ったまちなので、逆にどこを推せばいいのかわからない、だから尖がりをスパイスをどうつけるかが課題だなと改めて思いました。私は今日聞いていてイメージしたことは、面白みと体温が感じられるまちにしていくのが大事だなということでした。それは、デザインの力であったり、子どもを預けられる場所があるということだったり、歩いて楽しめるまちであったり、お喋りできるまちであったり、人の行き交いとか体温が感じられて、それで面白さがもてる、そのようなまちになっていく

といいのではないかなとイメージを持ちました。
　いずれにしても、小倉北区はいろんなものがしっかり揃っているので、一歩先に、次の時代に北九州市を引っ張っていく、新しいライフスタイルとか生活の形、人生の形というのを作っていこうというエネルギーが満ちていて、私も本当に今日はわくわくして力づけられる時間でした。本当にありがとうございました。

進行（丸川）：
　以上をもちまして、ミライ・トーク in 小倉北区のプログラムを終了とさせていただきます。誠にありがとうございました。

以上